会議レポート

インタラクション 2017
―明治大学 中野キャンパスにて最大の規模で開催―

「インタラクション」開始から 20 年

いまからさかのぼること 20 年前の 1997 年，ユーザインタフェース，CSCW（Computer-Supported Cooperative Work），入出力デバイス，ユビキタスコンピューティング等，インタラクションに関する広範囲な情報交換と議論の場として本会のシンポジウム「インタラクション」がはじまりました．そこから実に 20 年が経過し，本年（2017 年）の「インタラクション 2017」は，21 回目の開催となります（**図 -1**）．ヒューマンコンピュータインタラクション研究会，グループウェアとネットワークサービス研究会，ユビキタスコンピューティングシステム研究会，エンタテインメントコンピューティング研究会，デジタルコンテンツクリエーション研究会の 5 研究会が主催で運営され，確実にその規模を拡大し歩んできました．

インタラクション 2017 の構成

本シンポジウムは，招待講演，厳正なる査読を経て選ばれる一般講演発表（オーラル発表），およびインタラクティブ発表から構成されます．デモを重視する発表形態であるインタラクティブ発表は特に本シンポジウムの特徴です．

インタラクション 2017 では，吉野孝プログラム委員長のもと，プログラム委員会が組織され，メタ査読者として複数の論文を俯瞰するチーフプログラム委員（13 名）と個々の論文の詳細な査読を担当するプログラム委員（68 名）から構成されました．その厳密な査読と議論を経て 12 件が一般講演発表として採択されました（**図 -2**）．

インタラクティブ発表については，厳密な査読は行われないものの，特に優れた発表である「プレミアム発表」の選定および問題論文を発見するためにスクリーニングが行われ，219 件の投稿から 44 件のプレミアム発表と 160 件の一般発表，合計 204 件（過去最大件数）が採択されました．

図 -1　インタラクション 2017 のロゴ（Web 副委員長 中村裕美氏によるデザイン）．IN の文字によって中野のランドマークである「中野サンプラザ」が表現されている

図 -2　オープニングでベストペーパーの表彰後，受賞者がそのまま登壇する．なお本年はベストペーパー賞が 2 件となった

また，招待講演については「時間」の高精度化に挑戦している研究者の細川瑞彦先生をお招きし「究極の計測精度を求めて―絶対精度 18 桁への挑戦―」というタイトルでご講演いただきました．普段その正確さを気にとめることもない「時間」ですが，その精度に情熱を捧げている研究者たちがいるからこそ，私たちの社会システムが機能していることを痛感させられる素晴らしいご講演でした．

明治大学 中野キャンパスでの開催

さて，インタラクション 2017 は，明治大学中野キャンパス（**図 -3**）の 3 フロアを使って実施することとしました．明治大学中野キャンパスでは，日本を代表するインタラクションの研究教育拠点を目指して，総合数理学部 先端メディアサイエンス（FMS）学科が 2013 年よりスタートしています．2017 年は学科の完成年度でもあり，また新大学院（先端数理科学研究科 先端メディアサイエンス専攻）の設置時期でもあるので，よいお披露目の機会ともなると考えました．広い面積を提供できるため，フロアごとに搬入搬出場を設け，余裕のある荷さばきを行ったり，小教室を利用することにより（**図 -4**），音響・照明などインタラクティブ発表でも細やかな配慮を実施できました．ホール（**図 -5**）も 400 人以上収容可能であり，たとえば未来館よりも 3 割広い規模です．僕はこの中野キャンパスの設計段階からかかわっているのですが，設計時から「インタラクション」の実施をある程度念頭においていたので，実際に開催できて嬉しく思っています．会場費を抑えることに成功し，

図 -3　明治大学中野キャンパス

図 -4　インタラクティブ発表会場

財団による助成に頼らずに，本会学生会員およびジュニア会員の事前登録の参加費を無料として継続できました．都心部からアクセスしやすい場所なので，一般の参加者（家族連れや中高生など）の方にもインタラクション研究の最前線を体験いただく機会にもなりました．実際，一般公開入場者は 168 名となり，合計 847 名の参加者を記録しました．

表彰結果

本年は，ベストペーパー賞が 2 件という比較的珍しい展開となりました．インタラクティブ発表賞については，「一般投票」と「PC 推薦」の 2 種類を区別して表彰しているのが大きな特徴です．砂の下から大量の空気を送風することで砂が液体のようにふるまう「流動床インタフェース」は，研究としての応用性が高いと同時に来場者にも人気で，結果として PC 推薦と一般投票ともに受賞するという結果になっています．

表彰された発表を以下に列挙します．Web サイト[☆1]には受賞候補となったものも今年は積極的に公開されています．この一覧を見るだけで，200 以上の発表のうちどれが特に支持を得ていたかが分かると思います．

【ベストペーパー賞】

- モバイルカメラを用いたデバイス間アドホックアプリケーション共有
  萩原拓真（東北大），高嶋和毅（東北大），モルテンフィールド（Chalmers University of Technology），北村喜文（東北大）
- 連結した直線経路をステアリングする動作の分析とモデル化
  山中祥太（明治大／日本学術振興会），Wolfgang Stuerzlinger(Simon Fraser University)，宮下芳明（明治大）

【インタラクティブ発表賞　PC 推薦】

- 食べられる再帰性反射材の提案と試作
  宇治貴大（群馬大），奥寛雅（群馬大）
- 流動床インタフェース：液体のようにふるまう砂を用いたインタラクションシステム
  的場やすし（お茶の水女子大），菅谷諭（ものつくり大）
- タイムラインとビジュアルプログラミングを融合した映像制作システム
  高橋弘毅（明治大），宮下芳明（明治大）
- タッチサーフェスにおける押下圧と接触面積を組み合わせた直接操作技法
  池松香（お茶の水女子大），椎尾一郎（お茶の水女子大）
- CarryOtto：人と機械が一体化した移動デバイスの開発
  佐藤綱祐（筑波大），上林功（早大），小野田圭祐（慶大），片桐祥太（クルー），矢野博明（筑波大），岩田洋夫（筑波大）
- 複数一人称視点映像閲覧における行動空間とカメラ位置姿勢の 3 次元可視化による効果
  杉田祐樹（東大），樋口啓太（東大），米谷竜（東大），佐藤洋一（東大）
- 実物体の特徴ならびに接触圧を取得可能なデジタルペイントシステムによる創造的な描画体験の提供
  小坂真美（東京農工大），藤波香織（東京農工大）
- 身体動作を用いた浮世絵鑑賞への仮想参加
  草島将太（はこだて未来大），高橋拓也（はこだて未来大），友広歩李（はこだて未来大），角康之（はこだて未来大）
- steaDePhone：安定把持を可能にする背面形状変化型スマートフォン
  穴久保拓磨（東京農工大），谷田佑貴（東京農工大），藤波香織（東京農工大）

【インタラクティブ発表賞 一般投票】

- 食べられる再帰性反射材の提案と試作

☆1　http://www.interaction-ipsj.org/2017/award/

図 -5　400 人以上を収容可能なホール

宇治貴大（群馬大），奥寛雅（群馬大）

- 水族館における魚の動きを入力としたリアルタイム音楽生成システムの提案
  佐々木大輔（早大），中島武三志（早大），菅野由弘（早大）
- 流動床インタフェース：液体のようにふるまう砂を用いたインタラクションシステム
  的場やすし（お茶の水女子大），菅谷諭（ものつくり大）
- 遠隔地間での紙資料受け渡しによる対話相手の存在感の強化
  大城健太郎（阪大），田中一晶（阪大），中西英之（阪大）
- モータを用いた非対称回転による多指への疑似力覚呈示：把持姿勢における検討
  櫻木怜（電通大），YemVibol（電通大），梶本裕之（電通大）
- 身体映像に接した物体移動による遠隔地間での空間共有
  野村和裕（阪大），猪股誠至（阪大），中西英之（阪大）

大会委員長として

本シンポジウムは，実行委員会・プログラム委員会の委員の皆様のお力なしには実現できませんでした．ボランティアの域を超えた皆様のご尽力に心から感謝申し上げます．また，当然ながら，このシンポジウムは，ご投稿いただいた皆様，ご発表いただいた皆様，多数の協賛企業（7 社）・協賛学会（11 組織）の皆様のご支援のもとに成立しているものです．この場を借りまして，厚く御礼申し上げたいと思います．

10 年ほど本シンポジウムの運営に携わっておりますが，大会委員長という役職となって初めて見えたことがありました．発表者の皆様からのちょっとしたご要望や，投稿原稿の些細なミスといった事柄でも，積もり重なると膨大な量となり，担当委員にかなりの負担となる現状がそれです．インタラクションが今後もずっと有意義な情報交換の場として継続してほしいと願っていますが，こうした問題を抱えたまま進むのには限界があるようにも思いました．しかしその一方で，「まさにこれこそ私たちの知恵と技術で打開すべき課題」だとも信じています．今後ともぜひ，この問題に一緒に取り組み，ご協力を賜りますよう，どうぞよろしくお願い申し上げます．

（宮下芳明／明治大学総合数理学部先端メディアサイエンス学科／インタラクション 2017 大会委員長）

書評（ビブリオ・トーク）・会議レポート募集のお知らせ

情報処理学会会誌編集委員会では，会誌「情報処理」に掲載する書評，および会議レポートを広く会員の皆さまから募集しています．

1. 募集対象　次の 2 種類の記事について，原稿を募集します．書評に関しては，「ビブリオ・トーク―書評―」，「ビブリオ・トーク―私のオススメ―」の 2 つのカテゴリを設けます．

a-1）ビブリオ・トーク―書評―：過去 2 年間に出版された，本会会員にとって有益な図書についての紹介もしくは批評．

a-2）ビブリオ・トーク―私のオススメ―：お気に入りの本の紹介．

b）会議レポート：情報処理に関する国際規模の会議・大会の報告など，時事性が高く，本会会員に広く知らせる価値のある話題．

2. 応募資格

原則として本会会員に限ります．

3. 応募の手続き

1）表　題：ビブリオ・トークの場合は，書評もしくは私のオススメの投稿カテゴリ，著者名，書名，ページ数，発行所，発行年，価格，ISBN を書く．会議レポートは，見出しを書く．書評，会議レポートの別を左肩に書く．

2）評者名（会議レポートの場合は筆者名）・所属・評者連絡先（住所，E-mai，Fax など）の記載を忘れずに．

3）本　文：ビブリオ・トークは 1,500 字以内または 3,000 字以内（1 または 2 ページ）．会議レポートは 2,100 字前後で書く．

4）そ の 他：（必要であれば）参考文献，付録，図，表をつける．詳しくは「原稿執筆のご案内 / 書評・会議レポート」（http://www.ipsj.or.jp/magazine/sippitsu/shohyonews.html）を参照してください．

4. 原稿の取扱い

投稿された原稿は会誌編集委員会で審査し，採否を決定します．採用にあたっては原稿の修正をお願いすることがあります．あらかじめご了承ください．

5. 照会／応募先　一般社団法人 情報処理学会　会誌編集部門　E-mail:editj@ipsj.or.jp